

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401780		
法人名	(株)Human-system Japan		
事業所名	グループホーム 自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11-7 (電 話) 011-683-3300		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価確定日	平成19年7月18日

【情報提供票より】 (19年5月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11人, 非常勤 2人, 常勤換算	11.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷 金	(有)(40,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (6月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1		名	要介護2	6 名	
要介護3	9	名	要介護4	3 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 81 歳	最低	50 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人友善会 宮の沢ファミリークリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれた、眺望の良い高台に位置する2階建てのグループホームである。建物は新しく清潔で、共用空間や予備の部屋などがあり、ゆったりとした造りとなっている。ホームの方針として本人の希望やペースに沿って楽しく生活してもらうことを心掛けており実践されている。家族との連絡に「居室ノート」という連絡帳を使い、気軽に意見を出してもらうようにしている。ホーム内の看護師が医療機関との関係強化や職員の育成に役割を發揮している。職員の人間関係も良好である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価を各自で完成提出し、話し合ってユニットの全体評価を作りあげている。評価の意義や必要性を理解している。今後はガイドブックを参考に理解を進める方針としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	過去3回の運営推進会議を開催し、それぞれテーマを設定し活発に意見交換している。身体拘束に関すること、地域との協力、グループホームの今後の取り組みなどについて話し合っている。今後はサービス評価についても話し合う方針としている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の「ホームだより」、金銭出納報告のほか、入居者の部屋に「居室ノート」を設置し、家族とホームの細かな意思疎通に役立てている。運営推進会議に家族に参加してもらい、意見をいただいている。前述の「居室ノート」にも意見を書いてもらい、そのほかにも苦情箱を設置している。重要事項説明書に第三者の苦情処理機関を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加したり、ホームを地域の方に見てもらっている。運営推進会議などで、住民にお茶を飲みに来てくれるよう呼びかけているが、交流や活動参加はまだ少ない。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所では「自由で尊厳のある楽しい生活を支援します」という理念を掲げている。「自由」の文字はホーム名にも入っている。理念に地域との関係強化は理念に盛り込まれていないが、今後重視することとしている。	○	地域の中で安心して生活できる、また地域との関係強化の継続の観点を理念に加えられるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念のほかに、このホーム独自のケア理念があり、職員全員で話し合い、短く覚えやすいものに変えている。理念は十分に共有化されている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、地域の方にホーム内を見学していただいている。運営推進会議などで、近隣住民に気軽にお茶を飲みに来てくれるよう呼びかけているが、交流や活動参加はまだ少ない。	○	地域の方やボランティアの方との交流を進め、地域や近隣施設の行事参加などもより活発に取り組まれるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	最初に全職員が各自で自己評価を完成提出し、全員で話し合いユニットの評価を作り上げている。評価の意義や必要性を理解している。今後、ガイドブックを参考に理解を進める方針としている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去3回の運営推進会議を開催し、それぞれテーマを設定し活発に意見交換している。今後はサービス評価についても話し合う方針としている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加してもらい情報交換を行なっている。区や市の管理者会議にも参加し、情報交換を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ホームだより」、金銭出納報告のほか、入居者の部屋に「居室ノート」を設置し、家族とホームの細かな意思疎通に役立っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に参加してもらい、意見をいただいている。「居室ノート」にも意見を書いてもらい、そのほかにも苦情箱を設置している。重要事項説明書に第三者の苦情処理機関を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がある場合があるが、入居者に対しダメージを与える恐れがあるため辞職の話は伏せており、徐々に次の担当に慣れてもらうようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修、実務者研修の参加、介護福祉士の資格取得を支援している。外部研修に参加した際は、会議で内容の報告を受けている。ホームの看護師が中心となった勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の老健施設や病院関連施設との交流は活発である。グループホーム管理者会議に参加しているが、近隣のグループホームとの交流はない。	○	地域のほかのグループホームと相互研修や学習会などの交流を行ない、サービス向上に役立てられるよう期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に2回以上、職員が本人に会って、なじみの関係を築いたうえで入居してもらっている。ほかの利用者との相性も考慮し、入居を決定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時には、職員が利用者の息子や孫の役割を演じ、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴を記録し、聞いたことを蓄積している。家族からも本人の希望をヒアリングし、介護に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を開催し、全員の意見が介護計画に反映されるようになっている。家族の意見や意向も尊重している。個別の記録は、介護目標に沿って記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行ない、定期的には又は必要に応じて計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	掛りつけ医や理美容院への送迎を行なっている。ホームに入居する際は、自宅からの引越しを職員がサポートしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞いて、従来の掛りつけ医とホームの提携医療機関の両方を選択できる。ホームの看護師が窓口になっており、医療機関との関係はスムーズである。また、緊急搬送を想定し、事前に提携医で受信をしてカルテの作成を済ませている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの方針」という文書で家族に方針を伝え、同意書に署名・捺印を受けている。方針は、ホーム内で共有化されている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員から利用者への言葉掛けについて、気になった場合はすぐに指導するようにしている。個人情報の管理は徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分のペースで過ごしており、ホームからの押し付けは見られない。入浴や買物、体操、散歩など、本人の体調や希望に合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に、楽しく食事をしている。必要に応じて介助を行なっている。調理や片付けに利用者が参加することもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯など、なるべく本人の希望に合わせている。午前中の入浴やシャワーだけの入浴にも対応している。入浴を拒む方には言葉掛けを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片付け、畑仕事、カーテンの開閉など役割を持っている利用者もいる。ぬり絵やカラオケ、体操、歌などの楽しみ事も取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩のほか、毎月の行事を企画し、外出支援を行なっている。嫌いな食事のメニューが続く入居者を気分転換に外食に誘うケースもある。しかし、全体的にはまだ外出機会が少ない。	○	計画的な外出行事の設定や、ほかの福祉施設、グループホームとの交流などにより行き先の多様化を図り、外出機会を増やされるよう期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵をかけておらず、玄関に設置したセンサーにより、外出時に職員がわかるようになっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今月、消防署の指導のもと避難訓練を行った。救命講習も各職員が受講済みである。運営推進会議で地域住民に災害時の協力をお願いしている。災害対応の備品も整っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、本部の委託先が作成しており、栄養士の管理のもと、カロリーや塩分が把握されている。食事量や水分摂取量をバイタル表に細やかに記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりしている。ホームが丘の上にあり、眺望がよく居間の大きな窓から眼下の眺めを楽しむことができる。においや音、光も調節されており、気になることはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各利用者の馴染みのものが持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。